

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	九州財務局長
【提出日】	令和4年6月29日
【事業年度】	第130期(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
【会社名】	宮崎瓦斯株式会社
【英訳名】	MIYAZAKI GAS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 須崎 孝一
【本店の所在の場所】	宮崎市阿波岐原町野間311番地1
【電話番号】	0985(39)3911
【事務連絡者氏名】	経理部長 徳永 敦史
【最寄りの連絡場所】	宮崎市阿波岐原町野間311番地1
【電話番号】	0985(39)3911
【事務連絡者氏名】	経理部長 徳永 敦史
【縦覧に供する場所】	なし

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第126期	第127期	第128期	第129期	第130期
決算年月	平成30年3月	平成31年3月	令和2年3月	令和3年3月	令和4年3月
売上高 (百万円)	13,796	15,615	15,359	14,517	16,754
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	948	475	1,033	1,009	1,381
親会社株主に帰属する当期 純利益又は当期純損失 ( ) (百万円)	457	325	691	689	919
包括利益 (百万円)	480	323	588	679	798
純資産額 (百万円)	6,889	7,155	7,707	8,350	9,194
総資産額 (百万円)	23,478	23,666	26,393	30,870	32,391
1株当たり純資産額 (円)	1,875.14	1,965.99	2,125.89	2,320.71	2,581.32
1株当たり当期純利益又は 当期純損失( ) (円)	126.99	90.38	191.99	191.63	255.32
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	29.3	29.9	29.2	27.0	28.6
自己資本利益率 (%)	6.6	4.5	8.9	8.2	10.5
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	2,832	2,859	2,855	3,059	2,558
投資活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	7,860	3,596	5,383	4,195	3,815
財務活動によるキャッ シュ・フロー (百万円)	8,346	129	2,397	3,422	345
現金及び現金同等物の期末 残高 (百万円)	4,979	4,373	4,242	6,527	4,925
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	457 (-)	441 (-)	436 (-)	442 (-)	443 (-)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第126期	第127期	第128期	第129期	第130期
決算年月	平成30年 3月	平成31年 3月	令和 2年 3月	令和 3年 3月	令和 4年 3月
売上高 (百万円)	7,836	8,069	8,255	7,927	8,424
経常利益 (百万円)	1,044	798	738	731	882
当期純利益 (百万円)	743	554	516	509	614
資本金 (百万円)	180	180	180	180	180
発行済株式総数 (千株)	3,600	3,600	3,600	3,600	3,600
純資産額 (百万円)	6,646	7,177	7,592	8,096	8,656
総資産額 (百万円)	11,862	12,256	12,463	12,789	13,276
1株当たり純資産額 (円)	1,846.13	1,993.64	2,108.97	2,248.99	2,404.45
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	206.44	153.98	143.34	141.58	170.66
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	56.0	58.5	60.9	63.3	65.1
自己資本利益率 (%)	11.1	7.7	6.7	6.2	7.3
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	4.8	6.4	6.9	7.0	5.8
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	152 (-)	146 (-)	146 (-)	151 (-)	147 (-)
株主総利回り (比較指標：-) (%)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
最高株価 (円)	-	-	-	-	-
最低株価 (円)	-	-	-	-	-

(注) 1. 売上高には、営業雑収益、附帯事業収益、その他の事業収益を含んでおります。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 株価収益率については、当社株式は非上場であり、かつ店頭登録もしていないので記載しておりません。

4. 株主総利回り、比較指標、最高株価及び最低株価について、当社株式は非上場であるので記載しておりません。

5. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しており、当事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等を記載しております。

## 2【沿革】

昭和5年7月	ガス供給に対する宮崎市民の要望に応じて、地元有志と日本水電株式会社の協力により、宮崎県宮崎市に宮崎瓦斯株式会社を設立（資本金20万円）
昭和6年4月	事業開始
昭和17年12月	延岡瓦斯株式会社及び都城瓦斯株式会社の両社を吸収合併（資本金50万円）
昭和23年3月	～
昭和30年3月	この間、6回の増資を行い、資本金9,000万円となる。
昭和35年10月	液化石油ガスの普及に対処するため、宮崎瓦斯株式会社全額出資により、宮崎液化ガス株式会社を設立（資本金200万円）
昭和41年8月	供給ガスの熱量を3,600キロカロリーから、4,500キロカロリーに変更
昭和42年12月	増資を行い、資本金1億8,000万円となる。
昭和43年3月	宮崎県宮崎市生目地区に生目供給所を開設し、天然ガスによる都市ガスの供給を開始
昭和52年5月	伊勢化学工業株式会社より都市ガス原料として、天然ガス受入開始
昭和53年9月	宮崎県都城市吉尾町に新工場を建設し移転
昭和53年12月	宮崎液化ガス株式会社の増資を行い、資本金2,000万円となる。（現・連結子会社）
昭和58年3月	宮崎県宮崎市大字小松に天然ガスの新生目供給所を建設
昭和59年3月	宮崎県宮崎市山崎町に新工場建設用地を購入
昭和60年11月	都城支店社屋を宮崎県都城市牟田町に新築移転
昭和60年12月	宮崎新工場第一期工事として球形ガスホルダーを建設
昭和61年12月	宮崎県宮崎市学園都市内に特定製造所を建設、簡易ガス事業による供給を開始
昭和62年2月	本社社屋を宮崎県宮崎市宮脇町に新築移転
平成元年10月	宮崎瓦斯株式会社全額出資により、株式会社宮崎ガスリビングを設立（資本金1,000万円）（現・連結子会社）
平成3年11月	将来に向け供給ガス熱量の高熱量化を図るため、社内に熱量変更対策本部を組織し、準備作業に着手
平成6年2月	熱量変更作業開始（宮崎支店）
平成6年11月	熱量変更作業完了（宮崎支店）に伴い、供給ガスの熱量を4,500キロカロリーから15,000キロカロリーに変更
平成7年2月	本社及び宮崎支店事務所を宮崎県宮崎市阿波岐原町に新築移転
平成8年10月	液化天然ガスを原料とした熱量変更を実施予定で延岡支店に熱変本部を設置、準備作業に着手
平成10年2月	熱量変更作業開始（延岡支店）
平成10年8月	熱量変更作業完了（延岡支店）に伴い、供給ガスの熱量を4,500キロカロリーから11,000キロカロリーに変更
平成10年9月	液化天然ガスを原料とした熱量変更を実施予定で都城支店に熱変本部を設置、準備作業に着手
平成11年9月	熱量変更作業開始（都城支店）
平成11年12月	熱量変更作業完了（都城支店）に伴い、供給ガスの熱量を18.837225メガジュール（4,500キロカロリー）から46.04655メガジュール（11,000キロカロリー）に変更
平成12年2月	都城支店社屋を宮崎県都城市吉尾町に移転
平成15年3月	液化天然ガスを原料とした熱量変更作業完了（宮崎支店）に伴い、供給ガスの熱量を62.79075メガジュール（15,000キロカロリー）から46.04655メガジュール（11,000キロカロリー）に変更
平成21年10月	株式会社ニューウェルシティ宮崎を設立（資本金1,000万円）（現・連結子会社）
平成25年3月	宮崎県川南町に太陽光発電所（2.025MW）を建設
平成26年3月	宮崎県延岡市に太陽光発電所（1.750MW）を建設
平成26年6月	株式会社宮崎ガステクノサービスへ出資（現・連結子会社）
平成27年4月	宮崎液化ガス株式会社他2社の共同出資によりLPG配送会社 株式会社エネルギー・コミュニケーション宮崎を設立
平成28年12月	宮崎県日向市に太陽光発電所（1.106MW）を建設
平成29年4月	宮崎瓦斯株式会社全額出資により、株式会社エムジー興産を設立（資本金3,000万円）（現・連結子会社）
平成29年6月	株式会社エムジー興産が株式会社キングの株式を取得（現・連結子会社）
平成30年12月	株式会社ひむかエルエヌジーへ出資（現・連結子会社）
令和元年8月	株式会社宮崎ガステクノサービスが有限会社三成工業の株式を取得
令和2年4月	宮崎瓦斯株式会社及び株式会社宮崎ガスリビングが株式会社宮崎学校空調パートナーへ出資
令和2年5月	株式会社キング商事を株式会社キングへ吸収合併
令和2年10月	株式会社宮崎ガステクノサービスへ増資
令和3年8月	株式会社キングサービスを株式会社キングへ吸収合併
令和3年12月	株式会社ひむかエルエヌジー延岡工場が竣工

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（宮崎瓦斯株式会社）、関係会社12社で構成され、都市ガス、プロパンガスの供給、LNG（液化天然ガス）並びにLPG（液化石油ガス）の販売、ガス機器の販売、ホテル事業及び建設機械事業を主な事業としております。

当社グループの事業に係わる位置付け、及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1.(1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

#### < ガス事業 >

当社は、都市ガスの製造・供給及び販売、都市ガス事業に付随する工事及び器具販売を行っております。なお当社は原料の一部を子会社である宮崎液化ガス㈱より仕入れております。

子会社である宮崎液化ガス㈱は、LPG（液化石油ガス）の供給及び販売、LPG（液化石油ガス）事業に付随する工事及び器具販売を行っております。

子会社である㈱宮崎ガスリビングは、当社よりガス機器を購入し、販売をしております。また、住宅設備機器等の販売も行っております。

子会社である㈱宮崎ガステクノサービスは、当社からの委託により、主にお客様設備の保安点検業務を行っております。

子会社である㈱ひむかエルエヌジーは、宮崎県延岡地区に天然ガスを供給するため、LNG（液化天然ガス）受入基地を建設中でありましたが、令和3年12月に竣工し、令和4年1月よりガスの供給を開始しております。

#### < 附帯事業 >

当社は都市ガスの供給販売以外に附帯事業として、LNG（液化天然ガス）の液売りを行っております。また、供給基地を設けプロパンガスを供給及び販売しております。

なお、そのプロパンガスの一部を当社は子会社である宮崎液化ガス㈱より仕入れております。

また、平成25年3月より太陽光発電による売電を行っております。

#### < 建設機械事業 >

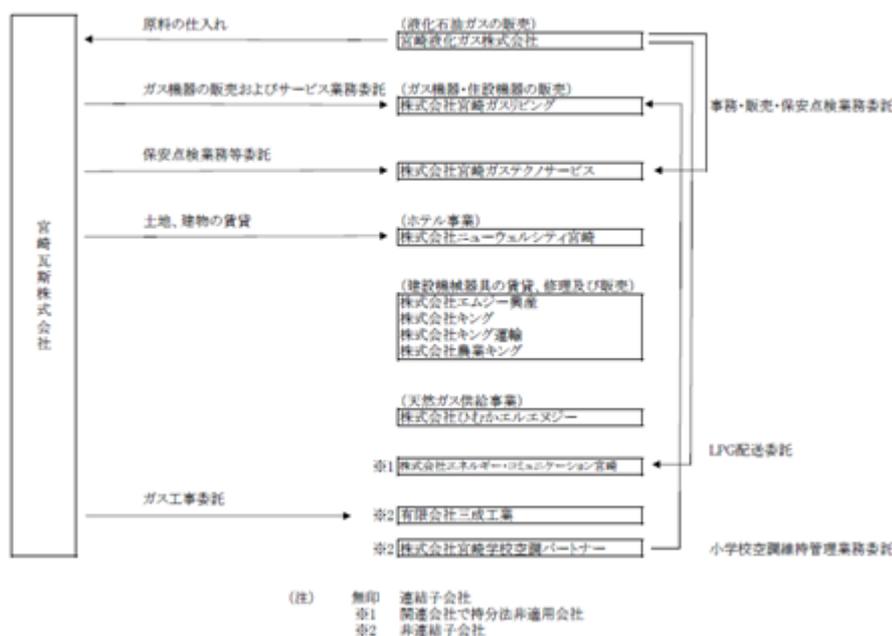
子会社である㈱エムジー興産、㈱キング、㈱キング運輸、㈱農業キングは、建設機械器具の賃貸、自家用自動車の賃貸、建設機械の修理並びに販売、一般土木施工、労働者派遣事業法に基づく人材の派遣業務、産業廃棄物の処理業務、損害保険代理業務（自動車損害責任保険のみ）、医療機器の販売並びに賃貸等に関する業務を行っております。

#### < その他 >

子会社である㈱ニューウェルシティ宮崎は、ホテル事業を営んでおります。

#### 〔事業系統図〕

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

令和4年3月31日現在

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合又は被所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 宮崎液化ガス(株) 1 3	宮崎市	20,000	液化石油ガスの販売	100	都市ガス用原料の購入 役員の兼任 7名
(株)宮崎ガスリビング	宮崎市	10,000	ガス機器の販売	100	ガス機器の卸売 役員の兼任 7名、出向1名
(株)ニューウェルシティ 宮崎	宮崎市	10,000	ホテル事業	90	土地、建物等の賃貸 役員の兼任 6名
(株)宮崎ガステクノサー ビス	宮崎市	30,000	ガス事業	80.6	保安点検業務等の委託 役員の兼任 2名
(株)エムジー興産 1	宮崎市	30,000	建設機械事業	100	役員の兼任 7名
(株)キング 1 2 3	宮崎市	80,000	同上	100 (100)	役員の兼任 4名、出向1名
(株)キング運輸 2	宮崎市	20,000	同上	100 (100)	役員の兼任 1名
(株)農業キング 2	宮崎市	10,000	同上	100 (100)	役員の兼任 1名
(株)ひむかエルエヌジー	宮崎市	50,000	天然ガス供給事業	51	役員の兼任 2名、出向6名

- (注) 1 特定子会社であります。  
2 議決権の所有又は被所有割合欄の(内書)は間接所有割合であります。  
3 宮崎液化ガス(株)及び(株)キングについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

	宮崎液化ガス(株)	(株)キング
(1) 売上高	2,209,819千円	4,497,545千円
(2) 経常利益	146,961	680,363
(3) 当期純利益	68,912	831,106
(4) 純資産額	1,428,314	5,364,275
(5) 総資産額	2,339,865	6,266,187

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

令和4年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
ガス事業	201
附帯事業	2
建設機械事業	172
報告セグメント計	375
その他	33
全社(共通)	35
合計	443

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社グループからグループ外部への出向者は除き、グループ外からの出向者を含む他、常用パートを含む)であります。  
2. 全社(共通)として、記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

令和4年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
147	41歳11ヶ月	12年5ヶ月	5,395,986

セグメントの名称	従業員数(人)
ガス事業	120
附帯事業	2
報告セグメント計	122
全社(共通)	40
合計	162

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む他、常用パートを含む。)であります。  
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

### (3) 労働組合の状況

- 名称 宮崎ガス労働組合
- 結成年月日 昭和22年5月22日
- 所属団体 全国ガス労働組合連合会
- 組合員数 令和4年3月31日現在124人(宮崎液化ガス㈱組合員25名を含む)
- 最近の状況 労使関係は安定しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

#### (1)経営方針

当社グループは提案営業力とサービスの強化により、経営体質を強化し、保安レベルの向上を推進するなかで、新たな事業への挑戦や地域活性化につながる社会貢献活動への積極的な参加など、お客様に選ばれ、信頼される企業となる。

#### (2)経営戦略等

当社グループは、低炭素社会へ貢献すると期待されている天然ガス、プロパンガスの普及拡大とともに、再生エネルギーと組み合わせた環境負荷の小さいガス機器、及び家庭用燃料電池等の積極的な販売を展開し、環境保全への取り組み強化を図っていきます。さらに、建設機械や農業機械などの賃貸、販売、修理及び運送を全般的にケアできる企業を目指していきます。

#### (3)当社グループを取り巻く経営環境

当社グループを取り巻く経営環境は、人口減少による社会経済構造の変化が表れてくる中、近年の原油価格、天然ガス原料価格の変動や電力を始めとする他エネルギーとの競争の激化、更には平成28年4月に実施された電力の小売完全自由化に続き、平成29年4月からガス小売全面自由化が施行されたこと等、各種エネルギー間の垣根が取り払われると同時に新規参入者との競合等が厳しくなっております。

また建設機械事業においては、建設投資が減少傾向になっており、同業他社との競争が激化する厳しい経営環境が予想されます。

当社グループは今後も他エネルギーや同業他社との競合はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染症のような経営環境の変化にも迅速に対応し、地域社会のさらなる発展に貢献してまいります。

#### (4)優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループは、法令を遵守し、コンプライアンスを徹底すると共に、総合エネルギー企業として、お客様生活の利便性の向上を目指した事業を展開し、地域社会の一層の発展に貢献してまいります。

財務体質に関しては、当社グループが一丸となって営業力強化による業績拡大や業務の効率化等を進め、安定したキャッシュ・フローを確保することにより、経営基盤の強化を図ってまいります。

#### (5)経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

具体的な経営指標として、売上高及び経常利益を重要指標として意識した経営を行っております。

### 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

#### (1)法的規制について

##### 価格競合について

エネルギー市場は規制緩和の進展に伴い、電気等他エネルギーとの競合がますます激化しています。それに伴い市場では顧客獲得・維持のためのコスト増や、大口需要家のガス料金の価格低減等により当社グループの収益性及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### 自由化に対する影響

当社グループは、ガス事業法等の法的規制を受けています。提出会社の営業拠点が3市、子会社については5市と分散化している為、地域性、顧客分布の面から効率的経営が厳しい中で、さらに今後法改正で自由化範囲の拡大が行われ、供給区域内に他エネルギー業界が進出することになれば競争が激化し、採算が悪化する等、経営環境がさらに厳しくなる可能性があります。

#### (2)変動リスク

##### 原料価格の変動

当社グループの製品は、LNG（液化天然ガス）を主要な原料としており、原油価格相場や為替相場の変動、原子力代替エネルギーとしての需要の増加や減少が原料の仕入価格に影響を与えます。仕入価格の変動は原料費調整制度の適用によってガス販売価格に反映されますが、反映までのタイムラグが発生します。また、原料価格が高騰し、平均原料価格を上回った場合は、収支に影響を及ぼす可能性があります。

#### 金利の変動

当社グループは、総資産額の多くを占めるガス供給設備の更新を例年余儀なくされていることから、定常的に設備投資資金を主として銀行借入により調達しており、当社グループの経営成績及び財政状態は、その金利変動により影響を受ける可能性があります。

#### (3) 季節変動

当社グループにとって季節変動による販売量の推移変化は非常に重要であり、売上高に最も影響を及ぼす部分であります。

#### (4) 自然災害

地震、津波等の大規模な自然災害により、工場等の製造設備、導管等の供給設備及びお客様設備に広範に被害が発生した場合、ガスの供給に支障を及ぼし、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 建設機械事業

建設機械事業は土木・建設機械の取扱いが主なため、公共設備投資の削減や民間設備投資の減少により貸与資産の稼働率の低下や同業者間の価格競争の激化が生じ、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 感染症の流行

新型コロナウイルス感染症の拡大により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。なお、当連結会計年度より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日）等を適用しております。詳細は、「第5 経理の状況

1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」に記載のとおりであります。

#### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国の経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、年度当初より大幅な減速を余儀なくされましたが、感染予防ワクチンの製造・供給・接種に目途がたってきたことから、緩やかながら回復基調にあるといえます。

このような経済情勢のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）は、ガスの安定供給と安全の確保に取り組むとともに、ガスの小売り全面自由化の主旨に則り、お客様へのサービスの充実や低料金化を推進し、大幅なCO<sub>2</sub>削減につながる天然ガスの普及・拡大とガス事業以外の事業の拡大に努めてきました。また、(株)ひむかエルエヌジーが宮崎県延岡地区で建設を進めてきた液化天然ガス（LNG）受入工事は令和3年12月に竣工し、令和4年1月よりガスの供給を開始いたしました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高167億5千4百万円（前年同期比15.4%増）、営業利益13億6百万円（前年同期比31.4%増）、経常利益13億8千1百万円（前年同期比36.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は9億1千9百万円（前年同期比33.2%増）を計上することとなりました。

当期も建設機械事業を取得した際に計上した有形固定資産の簿価と時価の評価差額分を減価償却費として2千5百万円（前年同期6千4百万円）計上しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ガス事業

ガス事業（付随する受注工事及び器具販売を含む）の売上高は、106億5千4百万円と前連結会計年度に比べ、17億6千6百万円（19.9%）の増収となり、営業利益は13億3千5百万円と前連結会計年度に比べ、4億7千9百万円（56.1%）増加しております。

#### 附帯事業

売上高は11億2千4百万円と前連結会計年度に比べ、9千5百万円（9.3%）の増収となりましたが、営業利益は2億8百万円と前連結会計年度に比べ、2千万円（8.9%）減少しました。これは主に簡易ガスの原料高によるものであります。

#### 建設機械事業

売上高は46億9千4百万円と前連結会計年度に比べ、3億9百万円（7.1%）増収となり、営業利益は5億4千2百万円と前連結会計年度と比べ、1億4千1百万円（35.2%）増加しました。

#### その他

売上高は2億8千万円と前連結会計年度に比べ、新型コロナウイルス感染症の影響の緩和により6千4百万円（29.9%）の増収となり、営業損失は8千万円（前連結会計年度は1億2千7百万円の営業損失）となりました。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前連結会計年度に比べ16億2百万円（24.6%）減少し、当連結会計年度末には49億2千5百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度に比べ5億円（16.4%）減少し、25億5千8百万円となりました。これは主に、未収入金の増加によるものであります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度に比べ3億7千9百万円（9.1%）減少し、38億1千5百万円となりました。これは主に、投資有価証券の売却及び償還による収入の増加と有形固定資産の取得による支出の減少によるものであります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は3億4千5百万円（前連結会計年度は34億2千2百万円の獲得）となりました。これは主に、長期借入れによる収入の減少によるものであります。

生産、受注及び販売の状況

a. 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	前年同期比(%)
ガス事業(千m3)	44,314	104.2
合計(千m3)	44,314	104.2

(注)セグメント間の内部振替前の数値によっております。

b. 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	前年同期比(%)
ガス事業(千円)	2,838,882	103.2
附帯事業(千円)	1,507,999	223.4
合計(千円)	4,346,882	126.9

c. 受注状況

当社グループ(当社及び連結子会社...以下同じ)は、受注生産は行っておりません。

d. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)	前年同期比(%)
ガス事業(千円)	10,654,322	119.9
附帯事業(千円)	1,124,776	109.3
建設機械事業(千円)	4,694,190	107.1
報告セグメント計	16,473,289	115.2
その他(千円)	280,750	129.9
合計(千円)	16,754,039	115.4

(注)セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。  
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 財政状態の分析

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産の残高は、製造設備の増加により、前年同期に比べ8.1%増加し、224億9千3百万円となりました。(前連結会計年度末208億2百万円、差引16億9千万円の増加)

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産の残高は、現金及び預金の減少により、前年同期に比べ1.7%減少し、98億9千7百万円となりました。(前連結会計年度末100億6千8百万円、差引1億7千万円の減少)

(固定負債)

当連結会計年度末における固定負債の残高は、長期借入金の減少により、前年同期に比べ6.3%減少し、170億4千3百万円となりました。(前連結会計年度末181億9千5百万円、差引11億5千1百万円の減少)

(流動負債)

当連結会計年度末における流動負債の残高は、支払手形及び買掛金の増加により、前年同期に比べ42.3%増加し、61億5千2百万円となりました。(前連結会計年度末43億2千4百万円、差引18億2千7百万円の増加)

(純資産)

当連結会計年度末における純資産の残高は、利益剰余金が増加したことにより、純資産合計は前年同期に比べ10.1%増加し、91億9千4百万円となりました。(前連結会計年度末83億5千万円、差引8億4千4百万円の増加)

b. 経営成績の分析

経営成績の分析については「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであります。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

キャッシュ・フローの状況については、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性については、資金需要の主なものは販売費及び一般管理費などの運転資金、ガス導管を中心とした設備投資資金であり、運転資金及び設備投資資金は主に営業活動によって得られた自己資金を充当し、必要に応じて借入金による資金調達を実施する方針としております。

なお、当連結会計年度末における有利子負債残高は183億6千3百万円、現預金残高は59億7百万円であります。

重要な会計上の見積り及び見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般的に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて実施しております。重要な会計方針及び見積りの詳細については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載のとおりであります。連結財務諸表に与える影響が大きいと考えられる項目は以下のとおりであります。

・ 税効果会計

当社グループは、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、将来の課税所得の見込み及びスケジュールリングに基づき、回収可能性を十分に検討し、回収可能な額を計上しております。

なお、財務諸表の作成にあたって、資産・負債や収益・費用に影響を与える見積りは、一定の会計基準の範囲内において過去の実績やその時点での入手可能な情報に基づき合理的に判断しておりますが、実際の結果は、これらの見積りと異なる可能性があります。

また、繰延税金資産の認識に際して用いた会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定のうち、重要なものについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載のとおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、需要の拡大、保安の強化、経営効率化を基本方針として、設備の拡充、更新、改善、安定供給等を中心に37億6千5百万円の設備投資を実施いたしました。

ガス事業における設備投資金額は、27億8千7百万円であります。新規需要への本支管工事、その他導管の整備・強化工事、経年管の取替・補強工事を中心に設備投資を実施いたしました。また、宮崎県延岡地区に天然ガスを供給するために、天然ガス受入基地を建設中でありましたが、令和3年12月に竣工し、令和4年1月よりガスの供給を開始しております。

附帯事業においては、1百万円の設備投資を実施いたしました。

建設機械事業においては、主に建設土木機械を中心とした貸与資産へ9億7千3百万円の設備投資を実施いたしました。

なお、当連結会計年度において生産能力に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、撤去はありません。

## 2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社及び連結子会社）における主要な設備は、以下のとおりであります。

### (1) 提出会社（有形固定資産）

令和4年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額						従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	機械装置 (千円)	導管 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
宮崎工場 (宮崎市)	ガス事業	製造設備	46,357	21,375	-	353,006 (29,485)	1,127	421,867	5
延岡工場 (延岡市)	ガス事業	製造設備	95,092	30,840	-	9,555 (14,775)	281	135,769	3
都城工場 (都城市)	ガス事業	製造設備	11,232	64,172	-	137,978 (19,080)	2,421	215,805	4
計			152,683	116,388	-	500,540 (63,341)	3,830	773,442	12
宮崎支店 (宮崎市)	ガス事業	供給設備	25,962	34,723	1,884,288 (65,339)	64,765 (3,523)	61,888	2,071,628	20
延岡支店 (延岡市)	ガス事業	供給設備	16,660	33,222	827,531 (59,324)	6,797 (287)	10,946	895,159	9
都城支店 (都城市)	ガス事業	供給設備	4,401	14,119	858,819 (21,406)	891 (4,570)	23,444	901,677	6
計			47,024	82,065	3,570,638 (146,070)	72,454 (8,381)	96,280	3,868,464	35
本社 (宮崎市)	会社統括業 務	業務設備	44,493	-	-	654,595 (18,042)	86,790	785,880	35
宮崎支店 (宮崎市)	管理業務	業務設備	198,287	378	-	- (-)	9,574	208,240	34
延岡支店 (延岡市)	管理業務	業務設備	77,190	53	-	5,262 (59)	5,671	88,177	16
都城支店 (都城市)	管理業務	業務設備	125,127	64	-	16,814 (2,114)	5,412	147,419	13
計			445,099	496	-	676,672 (20,216)	107,448	1,229,716	98
附帯事業設備 (宮崎市)	附帯事業	附帯事業 設備	3,622	9,319	10,170	54,839 (8,759)	1,848	79,800	2
附帯事業設備 (宮崎市)	附帯事業	附帯事業 設備	178	2,238	166	12,668 (624)	826	16,078	-
附帯事業設備 (宮崎市)	附帯事業	附帯事業 設備	-	207	-	- (-)	0	207	-
附帯事業設備 (宮崎市)	附帯事業	附帯事業 設備	-	147	-	- (-)	0	147	-
附帯事業設備 (宮崎市他)	附帯事業	附帯事業 設備	42,602	126,478	-	66,515 (57,365)	19,751	255,347	-
計			46,403	138,392	10,337	134,023 (66,748)	22,425	351,581	2
合計			691,211	337,342	3,580,976 (146,070)	1,383,691 (158,688)	229,984	6,223,205	147

(2) 国内子会社

令和4年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	機械装置 (千円)	導管 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
宮崎液化ガス (株)	宮崎営業 所他 (宮崎市 他)	ガス事業	供給設備 他	409,958	42,046	165,161	428,610 (22,337)	102,172	1,147,950	42
(株)宮崎ガスリ ビング	(宮崎 市)	ガス事業	業務設備	407,914	0	-	-	100,150	508,065	19
(株)ニューウェ ルシティ宮崎	(宮崎 市)	その他	業務設備	254	-	-	-	5,405	5,660	33
(株)宮崎ガステ クノサービス	(宮崎 市)	ガス事業	業務設備	2,838	-	-	20,000 (392)	230	23,068	29
(株)ひむかエル エヌジー	(延岡 市)	ガス事業	業務設備 他	1,257,953	5,257,187	815,636	-	16,363	7,347,140	-
(株)キング	(宮崎市 他)	建設機械 事業	建設機器 リース設 備	350,275	-	-	744,542 (81,417)	1,294,401	2,389,218	142
(株)キング運輸	(宮崎市 他)	建設機械 事業	建設機器 リース設 備	-	-	-	-	0	0	35
(株)農業キング	(宮崎市 他)	建設機械 事業	-	-	-	-	-	-	-	3

(注) 1. 稼働設備だけであり建設仮勘定は含んでおりません。

2. 供給設備の( )内は九州ガス事業協同組合高度化リース対象設備の金額であり、上段の金額に含まれております。

3. 附帯事業設備は、簡易ガス事業等の用に供している設備であります。

4. 子会社(株)ニューウェルシティ宮崎に対し賃貸中の設備の主なものは、建物及び土地13,177㎡であります。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設

当社グループ（当社及び連結子会社）の設備投資については、経営効率化目標と事業体質の強化等重点目標を総合的に勘案して策定しております。設備計画は原則的に連結会社各社が個別に策定しております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

#### 当社

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増 加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
宮崎瓦斯(株)									
宮崎支店	宮崎市	ガス事業	製造設備	11,621	-	自己資金及び 借入金	令和4年4月他	令和5年3月他	
"	"	"	供給設備	655,107	-	"	"	"	
"	"	"	業務設備	26,934	-	"	"	"	
"	"	"	付帯設備	5,642	-	"	"	"	新設戸数 1,320戸に 円滑にガス を供給
延岡支店	延岡市	"	製造設備	13,740	-	"	"	"	
"	"	"	供給設備	202,415	-	"	"	"	
"	"	"	業務設備	7,980	-	"	"	"	
都城支店	都城市	"	製造設備	255,819	-	"	"	"	
"	"	"	供給設備	164,124	-	"	"	"	
"	"	"	業務設備	6,345	-	"	"	"	
計				1,349,727	-				

#### 連結子会社

当社の連結子会社である株式会社ひむかエルエヌジーは、宮崎県延岡地区に天然ガスを供給するために天然ガス受入基地を建設中でありましたが、令和3年12月に竣工し、令和4年1月よりガスの供給を開始しております。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,400,000
計	14,400,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (令和4年3月31日)	提出日現在発行数(株) (令和4年6月29日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,600,000	3,600,000	非上場 非登録	単元株制度は 採用していな い
計	3,600,000	3,600,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
昭和42年12月31日 (注)	1,800	3,600	90,000	180,000	-	4,520

(注) 有償株主割当 1:0.8 発行価格 50円  
無償株主割当 1:0.2 発行価格 50円

( 5 ) 【所有者別状況】

令和4年3月31日現在

区分	株式の状況							単元未満株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		計
					個人 以外	個人			
株主数 (人)	1	2	-	23	-	-	372	398	-
所有株式数 (株)	4,000	242,000	-	874,780	-	-	2,479,220	3,600,000	
所有株式数 の割合 (%)	0.1	6.7	-	24.3	-	-	68.9	100	-

( 6 ) 【大株主の状況】

令和4年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本瓦斯株式会社	鹿児島市中央町8番地の2	420	11.7
宮崎瓦斯従業員持株会	宮崎市阿波岐原町野間311番地1	290	8.0
株式会社宮崎銀行	宮崎市橘通東4丁目3番5号	162	4.5
公益財団法人上野カネ奨学会	鹿児島市中央町18番1	110	3.1
塩見 美津子	宮崎市	102	2.8
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	100	2.8
株式会社宮崎太陽銀行	宮崎市広島2丁目1番31号	80	2.2
瀧砂 猛敏	宮崎市	80	2.2
塩月 光夫	宮崎市	78	2.2
橋口 光雄	宮崎市	76	2.1
計	-	1,499	41.6

(7)【議決権の状況】  
【発行済株式】

令和4年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,600,000	3,600,000	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	3,600,000	-	-
総株主の議決権	-	3,600,000	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、創業以来一貫して株主への利益還元を重要な課題のひとつと考えて、安定的な配当の継続を基本方針として事業の経営にあたってきました。

配当の決定機関は株主総会であり、配当の回数については期末の年1回と定めております。

当期の配当については、1株につき10円の配当を実施することに決定しました。この結果、配当性向は5.8%となりました。

内部留保資金は、経営体質の一層の充実並びに将来の事業展開に役立てたいと存じます。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
令和4年6月29日 定時株主総会決議	36,000	10

#### 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

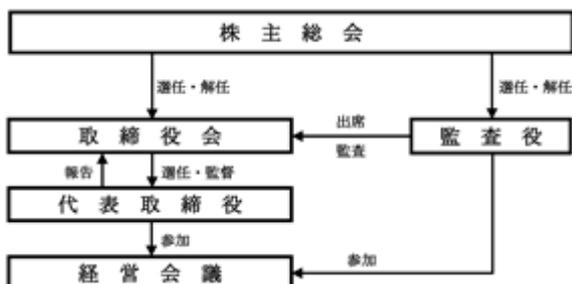
当社は、経営の効率化、企業体質の強化を図るとともに、安定供給と保安の確保、お客様へのサービスの向上に努め、公益事業としてコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況等

##### a. 会社の機関の内容

当社は、監査役制度を採用しており、コーポレート・ガバナンス体制の主たる機関として取締役会を設置しつつ、その補完機関として経営会議を設置しております。

取締役会は、取締役8名（うち社外取締役2名）及び監査役2名（うち社外監査役1名）で構成され、年5回開催し、経営の基本方針、法令で定められた事項その他経営に関する重要事項を的確に決定しております。また、取締役会には、監査役が出席し、取締役の業務執行の状況を監視できる体制となっております。取締役会の補完的役目を果たす経営会議は、社長、常務取締役及び取締役並びに各支店の支店長、各部の責任者の出席により、毎月1回開催し、経営方針の徹底、業務執行に関する重要事項の決定、利益計画の進捗状況のチェックを実施しております。



##### b. 内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムとしては、業務管理課を設置し、規程遵守の実態確認と業務が適正に行われているかについて、確認を行っております。業務管理課は、監査役とも連携し、監査の実効性を確保しております。

##### リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、常務取締役を委員長とする経営リスク委員会を設置し、年2回委員会を開催しております。その中で、リスクの評価、対策等に関し協議をおこない、リスクの未然防止と早期発見に努めております。

##### 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社の子会社の業務の適正を確保するための体制としては、グループ経営理念やグループ中期経営計画を策定することで、グループ全体の適切な管理・運営や業務の適正性を確保しております。

##### 役員報酬の内容

当社の社内取締役、社外取締役に対する報酬の内容は以下のとおりであります。

##### 役員報酬：

取締役（社内）に支払った報酬	93,270千円
取締役（社外）に支払った報酬	6,240千円
監査役（社内）に支払った報酬	12,120千円
監査役（社外）に支払った報酬	3,120千円
計	114,750千円

##### 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

##### 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及びその選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

##### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 10名 女性 - 名 ( 役員のうち女性の比率 - % )

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長	橋口 光雄	昭和24年10月2日	昭和47年4月 当社入社 平成15年8月 当社総務部長 同18年6月 当社取締役総務部長 同22年6月 当社当社常務取締役 同28年4月 当社取締役社長 同29年6月 株式会社キング取締役会長(現) 令和4年4月 当社取締役会長(現)	(注)3	76
代表取締役社長	須崎 孝一	昭和34年6月9日	昭和57年4月 当社入社 平成24年8月 当社技術部長 同28年6月 当社取締役技術部長 同30年6月 当社常務取締役 令和4年4月 当社取締役社長(現) 同4年4月 宮崎液化ガス株式会社取締役社長(現) 同4年6月 株式会社エネルギーコミュニケーション宮崎取締役社長(現) 同4年6月 株式会社ひむかエルエヌジー取締役社長(現)	(注)3	25
常務取締役	宮田 安司	昭和33年6月28日	昭和57年4月 当社入社 平成26年8月 当社延岡支店長 同28年8月 当社宮崎支店長 同30年6月 当社取締役宮崎支店長 令和元年8月 当社取締役営業部長 同2年4月 株式会社宮崎学校空調パートナー取締役社長(現) 同4年4月 当社常務取締役(現)	(注)3	14
取締役	久永 幸三郎	昭和29年2月19日	昭和51年4月 当社入社 平成16年8月 株式会社宮崎ガスリビング事業部長 同19年8月 当社経理部長 同22年6月 当社取締役経理部長 同28年4月 当社常務取締役 令和2年6月 株式会社ニューウェルシティ宮崎取締役社長(現) 同2年6月 株式会社宮崎ガステクノサービス取締役社長(現) 同2年6月 有限会社三成工業取締役社長(現) 同4年4月 株式会社宮崎ガスリビング取締役社長(現) 同4年4月 株式会社エムジー興産取締役社長(現) 同4年4月 当社取締役(現)	(注)3	30
取締役 総務部長	矢野 幸男	昭和38年1月4日	昭和62年4月 当社入社 平成26年8月 当社総合企画室長 同29年6月 当社より出向 株式会社キング取締役 令和元年8月 株式会社キング常務取締役 同3年6月 当社取締役総務部長(現)	(注)3	3
取締役 総合企画室長	杉田 隆文	昭和45年9月21日	平成5年4月 当社入社 平成29年8月 当社総合企画室長 令和4年6月 当社取締役総合企画室長(現)	(注)3	6
取締役	永山 在紀	昭和15年5月3日	平成16年12月 南国殖産株式会社取締役社長(現) 同19年12月 南国ビル株式会社取締役社長(現) 同20年1月 鹿児島ファミリーライフサービス株式会社取締役社長(現) 同20年6月 当社取締役(現) 同24年3月 九州おひさま発電株式会社取締役社長(現) 同24年4月 霧島開発株式会社取締役社長(現) 同26年6月 九州新エネルギーメンテナンス株式会社取締役社長(現) 同27年6月 株式会社ローソン南九州取締役会長(現)	(注)3	2

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	谷 仲吉	昭和19年7月18日	昭和53年12月 藤仲興産株式会社取締役社長 同53年12月 藤仲林材株式会社取締役社長 平成3年12月 学校法人延岡学園高等学校理事(現) 同5年5月 一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団理事(現) 同19年6月 当社監査役 同25年6月 当社取締役(現) 同29年4月 社会福祉法人真雅理事(現) 令和2年6月 株式会社藤屋取締役社長(現)	(注)3	-
常勤監査役	河野 慎也	昭和32年6月9日	昭和55年4月 当社入社 平成22年8月 当社総務部長 同26年6月 当社取締役総務部長 令和3年6月 当社常勤監査役(現)	(注)4	18
監査役	春山 豪志	昭和22年10月31日	平成16年6月 株式会社宮崎放送取締役東京支社長 同18年6月 株式会社宮崎放送常務取締役 同18年6月 宮崎放送商事株式会社代表取締役社長 同19年6月 株式会社宮崎放送代表取締役社長 同25年6月 当社監査役(現) 同27年6月 株式会社宮崎放送代表取締役会長 令和3年6月 株式会社宮崎放送代表取締役(現)	(注)4	2
計					157

- (注)1. 取締役 永山 在紀及び谷 仲吉は、社外取締役であります。  
2. 監査役 春山 豪志は、社外監査役であります。  
3. 令和4年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間  
4. 令和元年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は1名であり、所有株式数は上記の通りであります。また、当社と3名の間には人的関係、資本的关系又は重要な取引関係その他の利害関係はありません。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、常勤監査役1名及び非常勤監査役1名で構成されており、うち1名が社外監査役であります。

なお、常勤監査役は、取締役会等重要な会議に出席するなど、当社業務に対して幅広い知見を有しております。社外監査役は民間放送事業において長らく経営に携われ、企業経営を統括する幅広い見識と豊富な経験を有しております。

監査役監査における主な検討事項としては、取締役会等重要な会議に出席し、各法令に定める計算書類等が法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているかどうか、取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重要な事実がないか、監査公認会計士等の監査計画の内容、会計監査の職務執行状況等の評価が挙げられます。また、監査公認会計士による本社及び各支店の定期的な業務監査に同行し、業務及び会計監査を行っております。

内部監査の状況

当社における内部監査は、業務管理課が計画等に基づき、業務が適正に行われているかについて、監査を行っております。また、子会社の監査の実務は経理責任者及び担当者も監査を実施しており、監査役監査・公認会計士監査と連携してチェック機能を果たしております。

会計監査の状況

a. 業務を執行した監査公認会計士及び継続監査期間

三浦公認会計士事務所 公認会計士 三浦洋司 (3年間)

工藤公認会計士事務所 公認会計士 工藤経芳 (1年間)

b. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は該当ありません。

c. 監査証明の審査体制

監査意見表明のための審査については外部の公認会計士に委託しております。

d. 監査公認会計士の選定の方針と理由

当社は、公認会計士の選定について、監査日数及び監査の実施要領並びに監査費用が合理的かつ妥当であること等を総合的に判断した上で定めております。

e. 監査役による監査公認会計士の評価

当社の監査役は、監査公認会計士等に対し評価を行っており、監査公認会計士等の独立性及び監査活動並びに監査体制の検証を行っております。

f. 監査人の異動

当社の監査人は次の通り異動しております。

前連結会計年度及び前事業年度 公認会計士 徳光正行、公認会計士 三浦洋司

当連結会計年度及び当事業年度 公認会計士 三浦洋司、公認会計士 工藤経芳

なお、臨時報告書に記載した事項は次のとおりであります。

選任する監査公認会計士等の名称

工藤公認会計士事務所 公認会計士 工藤経芳

退任する監査公認会計士等の名称

徳光公認会計士事務所 公認会計士 徳光正行

異動の年月日 令和3年7月5日

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	5,967	-	8,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	5,967	-	8,000	-

b. 監査公認会計士等同一のネットワークに対する報酬(aを除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

監査報酬の決定方針は策定しておりませんが、監査公認会計士等からの監査計画、監査内容、監査日数等を勘案し、決定しております。

(4) 【役員の報酬等】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

なお、役員報酬の内容については、「4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要」に記載しております。

(5) 【株式の保有状況】

当社は非上場会社でありますので、記載すべき事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)及び「ガス事業会計規則」(昭和29年通商産業省令第15号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)及び「ガス事業会計規則」(昭和29年通商産業省令第15号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)の財務諸表について、公認会計士 三浦洋司氏、公認会計士 工藤経芳氏による監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり変更しております。

前連結会計年度及び前事業年度 公認会計士 徳光正行氏、公認会計士 三浦洋司氏

当連結会計年度及び当事業年度 公認会計士 三浦洋司氏、公認会計士 工藤経芳氏

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容や変更等を適時に把握し、適切に対応出来るようにするため、各種団体の主催する研修・セミナーに積極的に参加し、連結財務諸表等の適正性確保に取り組んでおります。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
資産の部		
固定資産		
有形固定資産		
製造設備	902,440	7,373,814
供給設備	4,253,153	4,908,347
業務設備	2,289,723	2,621,346
附带事業設備	383,549	351,581
貸与資産	2,366,290	2,389,218
建設仮勘定	6,284,121	314,643
有形固定資産合計	1, 3, 4 16,479,278	1, 3, 4 17,958,952
無形固定資産		
のれん	668,059	625,828
その他無形固定資産	104,607	92,108
無形固定資産合計	772,667	717,936
投資その他の資産		
投資有価証券	2 1,440,709	2 1,705,445
退職給付に係る資産	122,750	122,161
繰延税金資産	371,871	396,223
出資金	506,221	506,121
長期前払費用	971,720	984,493
その他	151,703	114,118
貸倒引当金	14,740	12,280
投資その他の資産合計	3,550,237	3,816,283
固定資産合計	20,802,182	22,493,171
流動資産		
現金及び預金	7,535,369	5,907,815
受取手形及び売掛金	2,016,142	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	6 2,691,017
商品及び製品	58,167	82,736
原材料及び貯蔵品	131,063	373,526
前払費用	67,078	43,780
リース投資資産	35,897	11,689
その他	246,284	813,748
貸倒引当金	21,298	26,423
流動資産合計	10,068,705	9,897,890
資産合計	30,870,888	32,391,062

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>固定負債</b>		
長期借入金	3 16,556,308	3 15,508,158
リース債務	135,755	93,206
長期未払金	633,013	623,477
役員退職慰労引当金	311,971	293,341
退職給付に係る負債	234,223	209,807
ガスホルダー修繕引当金	37,963	47,622
未払高度化資金	3 187,745	3 170,479
資産除去債務	39,627	39,993
繰延税金負債	59,123	57,857
固定負債合計	18,195,731	17,043,941
<b>流動負債</b>		
1年以内に期限到来の固定負債	3 1,301,801	3 1,642,340
支払手形及び買掛金	1,227,127	2,066,200
短期借入金	390,000	870,000
リース債務	98,999	78,944
未払法人税等	282,640	307,394
賞与引当金	154,081	152,299
その他	870,076	1,035,301
流動負債合計	4,324,726	6,152,480
負債合計	22,520,458	23,196,422
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	180,000	180,000
資本剰余金	50,174	50,174
利益剰余金	8,155,812	9,120,725
株主資本合計	8,385,986	9,350,899
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	31,418	58,124
その他の包括利益累計額合計	31,418	58,124
非支配株主持分	4,138	98,135
純資産合計	8,350,429	9,194,640
負債純資産合計	30,870,888	32,391,062

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
<b>売上高</b>		
ガス売上	7,308,559	9,059,624
その他営業雑収益	1,578,984	1,594,698
附帯事業売上	1,029,028	1,124,776
その他の事業売上	4,600,882	4,974,940
売上高合計	14,517,454	16,754,039
<b>売上原価</b>		
ガス売上原価	2,855,394	4,425,389
その他営業雑費用	1,455,757	1,320,437
附帯事業売上原価	758,838	916,384
その他の事業売上原価	3,016,378	3,168,922
売上原価合計	8,086,368	9,831,133
売上総利益	6,431,085	6,922,905
供給販売費及び一般管理費	2,543,614	2,561,183
営業利益	994,471	1,306,722
営業外収益		
受取利息	10,961	9,499
受取配当金	15,016	16,246
受取賃貸料	21,913	31,092
雇用調整助成金	37,705	15,268
保安引継費	12,927	19,559
工事負担金等受入額	54,978	1,376
投資有価証券売却益	6,558	-
匿名組合投資利益	6,468	10,628
保険解約返戻金	-	33,778
その他	7,207	43,726
営業外収益合計	173,738	181,176
営業外費用		
支払利息	93,480	98,264
収用等圧縮損	54,807	3,623
投資有価証券売却損	459	2,610
その他	10,109	1,503
営業外費用合計	158,857	106,003
経常利益	1,009,351	1,381,895
特別損失		
投資有価証券評価損	623	-
固定資産除却損	-	326
特別損失合計	623	326
税金等調整前当期純利益	1,008,728	1,381,569
法人税、住民税及び事業税	440,934	570,123
法人税等調整額	78,644	13,953
法人税等合計	362,289	556,170
当期純利益	646,439	825,399
非支配株主に帰属する当期純損失( )	43,450	93,778
親会社株主に帰属する当期純利益	689,889	919,177

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
当期純利益	646,439	825,399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32,709	26,705
その他の包括利益合計	1 32,709	1 26,705
包括利益	679,148	798,693
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	722,599	892,472
非支配株主に係る包括利益	43,450	93,778

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	180,000	35,428	7,501,922	7,717,351
当期変動額				
剰余金の配当			36,000	36,000
親会社株主に帰属する当期純利益			689,889	689,889
連結子会社の増資による持分の増減		14,745		14,745
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計		14,745	653,889	668,635
当期末残高	180,000	50,174	8,155,812	8,385,986

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	64,128	64,128	54,295	7,707,518
当期変動額				
剰余金の配当				36,000
親会社株主に帰属する当期純利益				689,889
連結子会社の増資による持分の増減				14,745
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	32,709	32,709	58,434	25,724
当期変動額合計	32,709	32,709	58,434	642,911
当期末残高	31,418	31,418	4,138	8,350,429

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	180,000	50,174	8,155,812	8,385,986
会計方針の変更による累積的影響額			81,734	81,734
会計方針の変更を反映した当期首残高	180,000	50,174	8,237,547	8,467,721
当期変動額				
剰余金の配当			36,000	36,000
親会社株主に帰属する当期純利益			919,177	919,177
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計			883,177	883,177
当期末残高	180,000	50,174	9,120,725	9,350,899

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	31,418	31,418	4,138	8,350,429
会計方針の変更による累積的影響額				81,734
会計方針の変更を反映した当期首残高	31,418	31,418	4,138	8,432,164
当期変動額				
剰余金の配当				36,000
親会社株主に帰属する当期純利益				919,177
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	26,705	26,705	93,996	120,701
当期変動額合計	26,705	26,705	93,996	762,475
当期末残高	58,124	58,124	98,135	9,194,640

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	1,008,728	1,381,569
減価償却費	2,069,502	2,277,395
のれん償却額	42,231	42,231
工事負担金等受入額	54,943	1,376
収用等圧縮損	54,807	3,623
投資有価証券評価損益(は益)	623	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	33,580	2,665
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	16,668	18,630
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	9,624	24,416
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	63,009	589
賞与引当金の増減額(は減少)	53,732	71,097
受取利息及び受取配当金	25,977	25,745
支払利息	93,480	98,264
匿名組合投資損益(は益)	6,468	10,628
売上債権の増減額(は増加)	29,423	-
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	-	593,140
棚卸資産の増減額(は増加)	1,760	267,030
未収入金の増減額(は増加)	-	627,217
仕入債務の増減額(は減少)	101,419	839,072
リース投資資産の増減額(は増加)	24,208	24,208
未払費用の増減額(は減少)	115,721	104,035
ガスホルダー修繕引当金の増減額(は減少)	9,658	9,658
未払消費税等の増減額(は減少)	19,186	9,944
その他	163,908	81,865
小計	3,243,343	3,169,966
利息及び配当金の受取額	25,977	31,162
利息の支払額	104,304	97,975
法人税等の還付額	237,764	81,689
法人税等の支払額	343,682	625,977
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,059,098</b>	<b>2,558,865</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	377,867	267,230
定期預金の払戻による収入	275,237	292,005
投資有価証券の売却及び償還による収入	155,902	390,097
投資有価証券の取得による支出	192,786	699,223
非連結子会社株式の取得による支出	9,000	-
有形固定資産の取得による支出	4,040,167	3,553,120
工事負担金等受入による収入	54,943	1,376
無形固定資産の取得による支出	27,849	8,530
その他投資増減額(は増加)	37,938	26,408
貸付金の回収による収入	3,828	2,458
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,195,697</b>	<b>3,815,758</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	90,000	198,000
短期借入れによる収入	-	678,000
長期借入れによる収入	4,588,897	580,049
長期借入金の返済による支出	954,671	1,304,926
配当金の支払額	35,896	35,863
非支配株主への配当金の支払額	237	217
割賦債務の返済による支出	-	2,323
リース債務の返済による支出	86,008	62,604
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,422,083</b>	<b>345,885</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,285,484	1,602,778
現金及び現金同等物の期首残高	4,242,307	6,527,792
現金及び現金同等物の期末残高	1 6,527,792	1 4,925,013

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 9社

主要な連結子会社の名称

宮崎液化ガス株式会社  
株式会社宮崎ガスリビング  
株式会社ニューウェルシティ宮崎  
株式会社宮崎ガステクノサービス  
株式会社エムジー興産  
株式会社キング  
株式会社キング運輸  
株式会社農業キング  
株式会社ひむかエルエヌジー

(注) 株式会社キングサービスは、令和3年8月1日付で株式会社キングと合併しており、上記連結子会社に含まれておりませんが、合併までの期間の損益及びキャッシュ・フローは、連結損益計算書、連結包括利益計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書に含まれております。

(2) 非連結子会社

有限会社三成工業  
株式会社宮崎学校空調パートナー  
(連結範囲から除いた理由)

連結子会社のうち有限会社三成工業は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(株分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、非連結子会社としております。

連結子会社のうち株式会社宮崎学校空調パートナーは、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(株分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、非連結子会社としております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社(有限会社三成工業、株式会社宮崎学校空調パートナー)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

また、持分法を適用していない関連会社(株式会社エネルギーコミュニケーション宮崎)は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる会社は次のとおりであります。

株式会社キング	6月30日
株式会社キング運輸	9月30日

連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

なお、匿名組合への出資持分については、組合規約に規定される決算報告日における最近の決算書を基礎とし、匿名組合損益のうち当社グループに帰属する持分相当損益を「営業外損益」の匿名組合投資利益・損失に計上するとともに「長期未払金」に計上しております。

ロ 棚卸資産

商品及び製品、原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

製造設備の内機械装置	10～20年
供給設備の内導管	13～22年
業務設備の内建物	10～50年
貸与資産	4～7年

- 無形固定資産（リース資産を除く）
    - その他の無形固定資産  
定額法を採用しております。
    - なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
  - 八 投資その他の資産（リース資産を除く）
    - その他のうち長期前払費用  
10年の期間で均等償却しております。
  - 二 リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- イ 貸倒引当金  
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - 役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支出に備えて役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。
  - 八 賞与引当金  
従業員に対して、支給する賞与の支出に充てるため将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。
  - 二 ガスホルダー修繕引当金  
球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕までの期間に配分して計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- 当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準
- イ 都市ガス  
売上高に含まれる都市ガスの売上は、定例的に実施する計量器の検針により測定した需要家のガス使用量に基づいて認識しております。
  - LNG  
売上高に含まれるLNGの売上は、顧客に引き渡した時点で収益を認識しております。
  - 八 LPG  
売上高に含まれるLPGの売上は、定例的に実施する計量器の検針により測定した需要家のガス使用量、及び、決算月の検針日から決算日までに生じた収益を見積もって認識しております。
  - 二 受注工事売上  
売上高に含まれる受注工事売上は、工事完成基準に基づいて認識しております。
  - ホ 器具・建設機器売上  
売上高に含まれる器具・建設機械売上は、顧客による検収に基づいて認識しております。
- (6) のれんの償却方法及び償却期間
- 20年以内の期間で均等償却しております。
- (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
- 連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性について

(1)当連結会計年度の連結財務諸表に計上した額

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産	371,871	396,223

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

連結財務諸表に計上した繰延税金資産は、将来の事業計画から予測される課税所得の見積りに基づいて、将来の税金負担額を軽減する効果を有すると判断したものについて認識しております。

将来の事業計画における主要な仮定

当社グループにおける主要なセグメントにおいては、今後の事業環境には重要な変化はないと仮定しております。また、その他セグメントにおいては、新型コロナウイルスの影響を受けているものの、ワクチンの普及等によりその影響も徐々に緩和されてくるものと仮定しております。

上記の主要な仮定は、将来の不確実な経済条件の変動の結果によって影響を受ける可能性があり、将来の課税所得の結果が予測・仮定と異なる場合は、繰延税金資産の回収可能性の評価が異なる可能性があります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、ガス小売事業者におけるガス売上及びLPG売上にに関して、従来は毎月の検針による使用量の計量に基づき収益を認識しておりましたが、決算月の検針日から決算日まで生じた収益を見積もって認識する方法に変更しております。ただし、「ガス事業会計規則」が適用される連結会社のガス売上は、毎月の検針による使用量の計量に基づき収益を認識しており、従来から変更はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当連結会計年度の売上高、営業利益、経常利益及び税金等調整前純利益はそれぞれ16,233千円増加しております。また、利益剰余金の当期期首残高は81,734千円増加しております。当連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書は税金等調整前当期純利益が16,233千円増加しております。

収益認識会計基準を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当連結会計年度より、「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示しております。また、前連結会計年度のキャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「売上債権の増減額(は増加)」は、当連結会計年度より「売上債権及び契約資産の増減額(は増加)」に含めて表示しております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いにしたがって前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。



## (連結貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	43,013,104千円	44,247,226千円

## 2 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
投資有価証券(株式)	52,500千円	52,500千円

3 担保資産及び担保債務  
担保に供している資産

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
供給設備	159,457千円	146,070千円
業務設備	571,109	571,074
計	730,567	717,145

## 上記に対応する債務

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
長期借入金	138,500千円	84,500千円
未払高度化資金	187,745	170,479
1年以内に期限到来の固定負債	80,679	81,315
計	406,924	336,294

## 4 有形固定資産の取得価額から控除されている圧縮記帳累計額

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
製造設備	1,320,015千円	1,320,015千円
供給設備	3,046,177	3,049,801
業務設備	41,002	41,002
附帯事業設備	196,873	196,873
計	4,604,069	4,607,693

## 5 当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
当座貸越極度額	4,300,000千円	5,800,000千円
借入実行残高	390,000	870,000
差引額	3,910,000	4,930,000

## 6 受取手形及び売掛金のうち、顧客との契約から生じた債権の金額は、それぞれ以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
受取手形	212,311千円
売掛金	2,372,053
契約資産	106,652

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)1.顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
給料及び賞与	1,847,173千円	1,824,731千円
委託作業費	863,824	703,251
減価償却費	1,128,028	1,023,577
賞与引当金繰入	152,494	97,023
役員退職慰労引当金繰入額	19,443	27,306
退職給付費用	12,160	44,592
修繕費	948,599	159,158

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
貸与資産	- 千円	326千円
計	-	326

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	34,327千円	39,208千円
組替調整額	12,896	838
税効果調整前	47,223	38,369
税効果額	14,514	11,664
その他有価証券評価差額金	32,709	26,705
その他の包括利益合計	32,709	26,705

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当連結会計年度増加株式数(千株)	当連結会計年度減少株式数(千株)	当連結会計年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	3,600	-	-	3,600
合計	3,600	-	-	3,600

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
令和2年6月26日 定時株主総会	普通株式	36,000	10	令和2年3月31日	令和2年6月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
令和3年6月29日 定時株主総会	普通株式	36,000	利益剰余金	10	令和3年3月31日	令和3年6月30日

当連結会計年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(千株)	当連結会計年度増加株式数(千株)	当連結会計年度減少株式数(千株)	当連結会計年度末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	3,600	-	-	3,600
合計	3,600	-	-	3,600

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
令和3年6月29日 定時株主総会	普通株式	36,000	10	令和3年3月31日	令和3年6月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
令和4年6月29日 定時株主総会	普通株式	36,000	利益剰余金	10	令和4年3月31日	令和4年6月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
現金及び預金勘定	7,535,369 千円	5,907,815 千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	1,007,577	982,801
現金及び現金同等物	6,527,792	4,925,013

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、基幹システムサーバー等であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2. 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上している額

(1) リース投資資産

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
リース投資資産	35,897	11,689

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融商品で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、市場価格変動のリスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3カ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に設備投資や建設機械事業の株式取得に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後20年であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスクの管理

営業債権については、リスク低減のための情報収集や定期的に残高の管理、回収を行っております。

市場価格の変動リスクの管理

投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式等であり、市場価格の変動を常時監視しながらリスクの回避を図っております。

資金調達に係る流動性リスクの管理

各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、「現金及び預金」並びに、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似する科目、連結貸借対照表計上額(連結貸借対照表計上額)の重要性が乏しい科目については、記載を省略しております。

前連結会計年度(令和3年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
投資有価証券	1,138,129	1,138,129	-
資産計	1,138,129	1,138,129	-
長期借入金及び未払高度化資金 (1年以内返済予定を含む)	18,045,854	17,991,519	54,334
負債計	18,045,854	17,991,519	54,334

当連結会計年度(令和4年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
投資有価証券	1,102,865	1,102,865	-
資産計	1,102,865	1,102,865	-
長期借入金及び未払高度化資金 (1年以内返済予定を含む)	17,320,977	17,270,272	50,704
負債計	17,320,977	17,270,272	50,704

(\*1) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位:千円)

区分	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
非上場株式	302,579	602,579
出資金	506,221	506,121

(\*2) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(令和3年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
その他有価証券のうち 満期があるもの 債券(社債)	-	100,160	94,510	204,570
合計	-	100,160	94,510	204,570

当連結会計年度(令和4年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
その他有価証券のうち 満期があるもの 債券(社債)	-	-	94,260	202,610
合計	-	-	94,260	202,610

(\*3) 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(令和3年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年以内4年超 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	390,000	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-
長期借入金	1,275,122	1,583,525	1,501,920	1,379,559	1,304,684	10,786,620
リース債務	98,999	70,167	26,497	21,859	17,231	
未払高度化資金	26,679	27,315	27,320	25,994	23,855	83,261
合計	1,790,800	1,681,007	1,555,737	1,427,412	1,345,770	10,869,881

当連結会計年度(令和4年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年以内4年超 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	870,000	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-
長期借入金	1,615,025	1,544,620	1,422,259	1,347,384	1,341,134	9,852,761
リース債務	78,944	35,275	28,321	20,881	3,280	5,446
未払高度化資金	27,315	26,603	25,277	23,138	20,207	75,254
合計	2,591,284	1,606,498	1,475,857	1,391,403	1,364,621	9,933,461

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される時価の算定の対象となる資産または負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価  
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品 当連結会計年度(令和4年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	281,810	-	-	281,810
国債・地方債	-	-	-	-
社債	-	296,870	-	296,870
その他	-	98,660	-	98,660
資産計	281,810	395,530	-	677,340

- ( ) 1 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 令和元年7月4日。以下、「時価算定適用指針」という。)第26項に従い、経過措置を適用した投資信託は上表には含めておりません。連結貸借対照表における当該投資信託の金額は425,524千円であります。

#### (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品 当連結会計年度(令和4年3月31日)

区分	時価(千円)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金及び未払高度化資金 (1年以内返済予定を含む)	-	17,270,272	-	17,270,272
負債計	-	17,270,272	-	17,270,272

#### (注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

##### 投資有価証券

上場株式及び社債は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。一方で、当社が保有している社債及びその他は、市場での取引頻度が低く、活発な市場における相場価格とは認められないため、その時価をレベル2の時価に分類しております。

##### 長期借入金及び未払高度化資金(1年以内返済予定を含む)

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間及び信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券  
該当事項はありません。

2. その他有価証券

前連結会計年度(令和3年3月31日現在)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	40,361	21,438	18,922
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	304,730	300,000	4,730
	その他	100,070	100,000	70
	(3) その他	93,250	92,932	318
	小計	538,412	514,370	24,041
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	258,119	319,944	61,825
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	94,510	100,000	5,490
	その他	-	-	-
	(3) その他	247,087	249,481	2,394
	小計	599,717	669,426	69,709
合計		1,138,129	1,183,797	45,668

当連結会計年度（令和4年3月31日現在）

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	46,455	21,438	25,017
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	202,610	200,000	2,610
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	249,065	221,438	27,627
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	235,354	317,944	82,589
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	94,260	100,000	5,740
	その他	98,660	100,000	1,340
	(3) その他	425,524	448,929	23,405
	小計	853,799	966,874	113,075
	合計	1,102,865	1,188,313	85,448

### 3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
その他	155,902	6,558	459

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
その他	190,097	-	2,610

### 4. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）において、有価証券について623千円（その他有価証券の株式623千円）減損処理を行っております。

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）において、減損処理を行った有価証券はありません。

当社グループにおける株式の減損処理の方針は、次のとおりであります。

下落率が50%以上の場合は、すべての株式を減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

下落率が30%以上50%未満の場合は、個別に回復可能性を検証したうえで、回復可能性があるものを除く株式について減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

具体的には、次の から に該当する場合は減損処理の対象としております。

時価が過去2年間にわたり著しく下落した状態にある。

債務超過の状態である。

2期連続で経常損失を計上しており、翌期もそのように予想される。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)及び当連結会計年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

当社グループはデリバティブ取引を全く行っていませんので、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として、都市ガス企業年金基金制度、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度並びに中小企業退職金制度を設けております。

都市ガス企業年金基金制度(すべて積立型制度であります)は給与と勤務期間に基づいた一時金または年金を支給します。

確定給付企業年金制度(すべて積立型制度であります)は給与と勤務期間に基づいた一時金または年金を支給します。

退職一時金制度(非積立型制度であります)は給与と勤務期間に基づいた一時金を支給します。

中小企業退職金制度(すべて積立型制度であります)は勤務期間に基づいた一時金を支給します。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	243,848千円	234,223千円
退職給付費用	12,160	1,594
退職給付の支払額	21,784	26,011
制度への拠出額	-	-
企業結合による増加	-	-
退職給付に係る負債の期末残高	234,223	209,807

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	869,152千円	807,154千円
年金資産	991,903	929,315
	122,750	122,161
非積立型制度の退職給付債務	234,223	209,807
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	111,473	87,645
退職給付に係る負債	234,478	209,807
退職給付に係る資産	122,750	122,161
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	111,473	87,645

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 12,160千円 当連結会計年度 1,594千円

(ストック・オプション等関係)  
該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	97,055千円	90,619千円
役員退職慰労引当金	51,580	50,993
賞与引当金	71,635	64,053
未払事業税	23,732	22,890
その他有価証券評価差額金	14,319	25,984
繰越欠損金	127,707	217,920
匿名組合損失	68,476	67,805
その他	84,581	103,862
繰延税金資産小計	539,089	644,128
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)1	101,644	174,605
将来減算一時差異の合計に係る評価性引当額	6,271	23,003
評価性引当額小計	107,916	197,609
繰延税金資産合計	431,172	446,518
繰延税金負債		
貸与資産評価差額金	9,404	553
のれん	63,518	63,381
前払年金費用	38,714	38,222
その他	6,660	5,996
繰延税金負債合計	118,297	108,152
繰延税金資産の純額	312,875	338,365

(注)1. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(令和3年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(1)	-	-	-	-	-	127,707	127,707
評価性引当額	-	-	-	-	-	101,644	101,644
繰延税金資産	-	-	-	-	-	26,063	(2)26,063

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(2) 繰延税金資産を回収可能と判断した理由は、将来実現可能性の高い課税所得の発生が見込まれるからであります。

当連結会計年度（令和4年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金( 3)	-	-	-	-	-	217,920	217,920
評価性引当額	-	-	-	-	-	174,605	174,605
繰延税金資産	-	-	-	-	-	43,414	( 4 ) 43,314

( 3 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 4 ) 繰延税金資産を回収可能と判断した理由は、将来実現可能性の高い課税所得の発生が見込まれるからであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (令和3年3月31日)	当連結会計年度 (令和4年3月31日)
法定実効税率	30.4%	30.4%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9	0.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.5	0.3
住民税均等割	1.4	1.0
評価性引当額の増減	5.5	11.1
その他	1.5	2.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	36.3	40.2

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(1) 取引の概要

結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称：株式会社キング、株式会社キングサービス

事業の内容：建設機械事業

企業結合日

令和3年8月1日

企業結合の法的形式

株式会社キングを存続会社とし、株式会社キングサービスを消滅会社とする吸収合併

結合後企業の名称

株式会社キング(当社の連結子会社)

その他取引の概要に関する事項

連結子会社の経営資源を結合することにより、建設機械事業における経営の効率化及び安定化を図ることを目的としております。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

太陽光発電施設用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から17年と見積り、割引率は0.63%～1.04%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
期首残高	39,265千円	39,627千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	362	365
期末残高	39,627	39,993

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

財またはサービスの種類別の内訳

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計
	ガス事業	附带事業	建設機械事業	計		
都市ガス	7,175,536	-	-	7,175,536	-	7,175,536
L N G	-	656,874	-	656,874	-	656,874
L P G	1,801,516	198,483	-	1,999,999	-	1,999,999
受注工事売上	245,673	10,347	-	256,021	-	256,021
器具・建設機械売上	1,187,745	3,037	130,061	1,320,845	-	1,320,845
その他	161,278	228,802	-	390,080	280,750	670,830
顧客との契約から生じる収益	10,571,751	1,097,545	130,061	11,799,358	280,750	12,080,108
その他の収益(注)2	82,571	27,231	4,564,128	4,673,931	-	4,673,931
外部顧客への売上高	10,654,322	1,124,776	4,694,190	16,473,289	280,750	16,754,039

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業を含んでおります。

2. 「その他の収益」には、リースに係る収益等を含んでおります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報については、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の「4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から当連結会計年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主にガス事業と附帯事業を行っており、商品・サービス別のセグメントである「ガス事業」、「附帯事業」及び「建設機械事業」の3つを報告セグメントとしております。

「ガス事業」は都市ガスの供給・販売、LPG（液化石油ガス）の販売及び付随する受注工事、器具販売などを行っており、「附帯事業」はLNG（液化天然ガス）及びLPG（液化石油ガス）の販売等を行っております。また、太陽光発電による売電を行っております。なお、附帯事業については、当社が都市ガスの供給販売以外に行っている事業となります。「建設機械事業」は建設機械器具の賃貸、自家用自動車の賃貸、建設機械の修理並びに販売、一般土木施工、労働者派遣事業法に基づく人材の派遣業務、産業廃棄物の処理業務、損害保険代理業務（自動車損害責任保険のみ）、医療機器の販売並びに賃貸等に関する業務を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部利益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

なお、会計方針の変更に記載のとおり、当連結会計年度に係る連結財務諸表から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損益の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて「ガス事業」の売上高及びセグメント利益が16,233千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額(注) 2・3	連結財務諸表 計上額 (注)4
	ガス事業	附帯事業	建設機械事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	8,887,543	1,029,028	4,384,768	14,301,340	216,114	14,517,454	-	14,517,454
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	29,625	-	68,354	97,980	5,986	103,966	103,966	-
計	8,917,169	1,029,028	4,453,123	14,399,321	222,100	14,621,421	103,966	14,517,454
セグメント 利益又は損 失( )	855,071	228,863	401,226	1,485,161	127,900	1,357,261	362,790	994,471
セグメント 資産	20,600,030	383,549	4,916,949	25,900,529	229,939	26,130,468	4,740,419	30,870,888
その他の項目								
減価償却費	985,026	40,059	1,041,782	2,066,869	2,632	2,069,502	-	2,069,502
有形固定資 産及び無形 固定資産の 増加額	3,459,807	2,118	722,246	4,184,171	1,247	4,185,418	-	4,185,418

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 362,790千円には、セグメント間取引消去 17,906千円、及び全社費用 344,884千円が含まれております。全社費用は、主に一般管理費であります。

3. セグメント資産の調整額4,740,419千円には、余資運用資金(現・預金)2,883,236千円、長期投資資金1,857,182千円が含まれております。

4. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額(注) 2・3	連結財務諸表 計上額 (注) 4
	ガス事業	附帯事業	建設機械事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	10,654,322	1,124,776	4,694,190	16,473,289	280,750	16,754,039	-	16,754,039
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	39,881	-	12,380	52,262	8,407	60,669	60,669	-
計	10,694,204	1,124,776	4,706,570	16,525,551	289,157	16,814,709	60,669	16,754,039
セグメント 利益又は損 失( )	1,335,051	208,391	542,607	2,086,050	80,618	2,005,432	698,709	1,306,722
セグメント 資産	21,937,948	351,581	4,455,977	26,745,508	201,077	26,946,585	5,444,476	32,391,062
その他の項目								
減価償却費	1,302,796	36,724	935,623	2,275,144	2,250	2,277,395	-	2,277,395
有形固定資 産及び無形 固定資産の 増加額	2,787,846	1,760	973,830	3,763,438	2,542	3,765,980	-	3,765,980

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 698,709千円には、セグメント間取引消去36,543千円、及び全社費用 735,252千円が含まれております。全社費用は、主に一般管理費であります。

3. セグメント資産の調整額5,444,476千円には、余資運用資金(現・預金)3,328,674千円、長期投資資金2,115,802千円が含まれております。

4. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

#### 【関連情報】

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

##### 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報「3. セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報」を参照。

##### 2. 地域ごとの情報

###### (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

###### (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

##### 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客の売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

（単位：千円）

	ガス事業	附帯事業	建設機械事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	13,660	-	28,571	-	-	42,231
当期末残高	203,771	-	464,287	-	-	668,059

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

（単位：千円）

	ガス事業	附帯事業	建設機械事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	13,660	-	28,571	-	-	42,231
当期末残高	190,111	-	435,716	-	-	625,828

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

前連結会計年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

当連結会計年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
1株当たり純資産額	2,320円71銭	2,581円32銭
1株当たり当期純利益金額	191円63銭	255円32銭

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当連結会計年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	689,889	919,177
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	689,889	919,177
期中平均株式数(千株)	3,600	3,600

(注) 「会計方針の変更」に記載のとおり、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日)等を適用し、「収益認識に関する会計基準」第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産額は17.17円増加し、1株当たり当期純利益は5.52円減少しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	390,000	870,000	0.49	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,275,122	1,615,025	0.57	-
1年以内に返済予定のリース債務	98,999	78,944	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	16,556,308	15,508,158	0.52	令和15年9月他
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	135,755	93,206	-	-
その他有利子負債				
1年以内に返済予定の未払高度化資金	26,679	27,315	0.85	-
未払高度化資金 (1年以内に返済予定のものを除く)	187,745	170,479	0.73	令和19年3月他
小計	214,424	197,794	-	-
合計	18,670,609	18,363,128	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,544,620	1,422,259	1,347,384	1,341,134
リース債務	35,275	28,321	20,881	3,280
その他有利子負債	26,603	25,277	23,138	20,207

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
資産の部		
固定資産		
有形固定資産		
製造設備	4,746,571	4,754,137
減価償却累計額	3,937,930	3,980,695
製造設備(純額)	808,640	773,442
供給設備	24,450,766	24,849,442
減価償却累計額	20,414,012	20,980,977
供給設備(純額)	4,036,754	3,868,464
業務設備	2,122,050	2,201,675
減価償却累計額	914,345	971,959
業務設備(純額)	1,207,705	1,229,716
附帯事業設備	2,104,027	2,105,247
減価償却累計額	1,720,478	1,753,666
附帯事業設備(純額)	383,549	351,581
建設仮勘定	33,613	314,379
有形固定資産合計	1,264,470,263	1,265,537,584
無形固定資産		
その他無形固定資産	79,315	63,848
無形固定資産合計	79,315	63,848
投資その他の資産		
投資有価証券	1,203,410	1,469,046
関係会社投資	152,200	152,200
出資金	502,075	502,075
差入保証金	48,465	49,722
長期前払費用	783,244	791,958
前払年金費用	87,664	95,285
繰延税金資産	262,595	272,268
その他投資	61,833	28,265
貸倒引当金	6,300	6,300
投資その他の資産合計	3,095,188	3,354,521
固定資産合計	9,644,766	9,955,954
流動資産		
現金及び預金	2,005,810	2,225,489
受取手形	30,740	-
売掛金	3808,008	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	3870,266
未収入金	4,561	8,143
製品	6,081	6,871
原料	60,948	100,047
貯蔵品	30,654	36,397
受注工事勘定	44,784	11,439
リース投資資産	35,897	11,689
その他流動資産	3120,892	352,249
貸倒引当金	4,042	2,122
流動資産合計	3,144,338	3,320,472
資産合計	12,789,104	13,276,427

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,393,428	1,247,810
リース債務	92,137	53,702
退職給付引当金	108,842	107,740
役員退職慰労引当金	257,901	259,305
ガスホルダー修繕引当金	37,963	47,622
未払高度化資金	1,418,745	1,417,479
資産除去債務	39,627	39,993
長期末払金	624,880	617,667
<b>固定負債合計</b>	<b>2,742,525</b>	<b>2,544,320</b>
<b>流動負債</b>		
1年以内に期限到来の固定負債	1,497,501	1,469,808
買掛金	3,554,741	3,557,590
リース債務	70,315	47,926
未払金	208,105	443,694
未払費用	3,169,872	3,142,036
未払法人税等	172,356	162,464
前受金	14,365	96
預り金	8,691	8,494
賞与引当金	72,880	68,341
社内預り金	181,350	175,599
<b>流動負債合計</b>	<b>1,950,179</b>	<b>2,076,052</b>
<b>負債合計</b>	<b>4,692,705</b>	<b>4,620,372</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	180,000	180,000
<b>資本剰余金</b>		
資本準備金	4,520	4,520
<b>資本剰余金合計</b>	<b>4,520</b>	<b>4,520</b>
<b>利益剰余金</b>		
利益準備金	45,000	45,000
<b>その他利益剰余金</b>		
別途積立金	6,915,000	7,415,000
繰越利益剰余金	976,522	1,063,219
<b>利益剰余金合計</b>	<b>7,936,522</b>	<b>8,523,219</b>
<b>株主資本合計</b>	<b>8,121,043</b>	<b>8,707,740</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	24,644	51,685
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>24,644</b>	<b>51,685</b>
<b>純資産合計</b>	<b>8,096,399</b>	<b>8,656,055</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>12,789,104</b>	<b>13,276,427</b>

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	当事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
ガス事業売上高		
ガス売上	5,810,424	6,330,088
ガス事業売上高合計	5,810,424	6,330,088
売上原価		
期首棚卸高	7,289	6,081
当期製品製造原価	1 2,371,079	1 2,796,162
当期製品自家使用高	6,028	7,441
期末棚卸高	6,081	6,871
売上原価合計	2,366,258	2,787,932
売上総利益	3,444,165	3,542,156
供給販売費	1 2,475,635	1 2,385,791
一般管理費	1 701,709	1 740,893
供給販売費及び一般管理費合計	3,177,345	3,126,685
事業利益	266,820	415,471
営業雑収益		
受注工事収益	1 298,807	1 236,723
その他営業雑収益	1 789,662	1 732,625
営業雑収益合計	1,088,469	969,348
営業雑費用		
受注工事費用	277,926	216,476
その他営業雑費用	715,636	657,905
営業雑費用合計	993,563	874,381
附帯事業収益	1,029,028	1,124,776
附帯事業費用	1 800,164	1 938,602
営業利益	590,590	696,612
営業外収益		
受取利息	1 168	1 154
受取配当金	1 10,071	1 12,024
移設補償金	3,896	-
受取賃貸料	1 47,981	1 47,248
有価証券利息	10,279	8,399
出向者負担金	1 51,182	1 62,401
工事負担金等受入額	54,978	-
投資有価証券売却益	6,558	-
匿名組合投資利益	6,468	10,628
保険解約返戻金	-	30,355
その他	22,162	34,939
営業外収益合計	213,749	206,151
営業外費用		
支払利息	17,950	14,263
収用等圧縮損	54,807	3,623
投資有価証券売却損	459	2,610
その他	-	69
営業外費用合計	73,217	20,566
経常利益	731,122	882,196
税引前当期純利益	731,122	882,196
法人税等	2 244,272	2 265,653
法人税等調整額	22,854	2,165
法人税等合計	221,417	267,819
当期純利益	509,704	614,377

( 附表 )  
営業費明細表

科目	前事業年度 ( 令和 2 年 4 月 ~ 令和 3 年 3 月 )				当事業年度 ( 令和 3 年 4 月 ~ 令和 4 年 3 月 )			
	製造費 ( 千円 )	供給販売費 ( 千円 )	一般管理費 ( 千円 )	合計 ( 千円 )	製造費 ( 千円 )	供給販売費 ( 千円 )	一般管理費 ( 千円 )	合計 ( 千円 )
原材料費	2,148,165			2,148,165	2,592,406			2,592,406
原料費	2,142,597			2,142,597	2,586,144			2,586,144
補助材料費	5,568			5,568	6,262			6,262
諸給与	86,104	694,254	489,400	1,269,760	80,330	622,643	507,191	1,210,165
役員給与			116,460	116,460			114,750	114,750
給料	47,932	390,000	186,881	624,813	50,339	368,503	200,447	619,289
雑給		2,498	5,863	8,362		2,443	2,476	4,919
賞与手当	17,913	142,737	65,060	225,710	16,026	124,269	79,032	219,327
法定福利費	10,087	86,904	46,290	143,281	8,525	80,005	51,309	139,839
厚生福利費	2,394	20,191	9,968	32,554	2,220	20,150	9,691	32,061
退職手当	7,777	51,923	58,876	118,576	3,219	27,270	49,484	79,973
諸経費	76,550	1,034,317	175,918	1,286,785	72,381	1,028,924	187,050	1,288,356
修繕費	24,306	136,515	2,907	163,730	21,477	130,056	5,109	166,302
ガスホルダー 修繕引当金繰 入額	9,658			9,658	9,658			9,658
電力料	6,702	4,506	1,184	12,393	6,818	4,456	1,297	12,571
水道料	381	795	359	1,537	305	849	252	1,407
使用ガス費	376	2,359		2,735	517	2,989		3,506
消耗品費	5,370	25,732	7,709	38,812	4,382	35,292	8,553	48,227
運賃	16	364	1,035	1,416	20	414	1,193	1,627
旅費交通費	360	3,047	2,049	5,457	765	3,021	4,069	7,856
通信費	643	26,534	4,994	32,173	693	25,278	4,815	30,787
保険料	3,329	2,492	4,344	10,166	2,727	2,998	5,834	11,561
賃借料	316	12,798	10,149	23,264	389	13,459	11,238	25,086
委託作業費	7,933	319,913	43,980	371,827	6,335	313,076	47,094	366,505
租税課金	11,027	118,721	43,279	173,027	11,477	117,196	43,730	172,404
教育費	65	817	760	1,644	268	2,648	2,079	4,996
需要開発費		327,284		327,284		332,021		332,021
棚卸減耗費		1,174		1,174		1,178		1,178
固定資産除却 費	4,225	32,734	1,728	38,688	4,731	28,205	7,496	40,433
貸倒引当金繰 入額		2,006		2,006		39		39
雑費	1,834	16,517	51,434	69,786	1,812	15,742	44,285	61,840
減価償却費	60,258	747,064	36,391	843,713	51,043	734,222	46,651	831,918
合計	2,371,079	2,475,635	701,709	5,548,425	2,796,162	2,385,791	740,893	5,922,847

( 注 ) 1 租税課金の内訳は下記のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
固定資産税	83,401 千円	84,004 千円
事業税	40,793	41,023
道路占用料	38,482	39,952
その他	10,350	7,424
計	173,027	172,404

2 原価計算の方法は単純総合原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	180,000	4,520	4,520	45,000	6,415,000	1,002,817	7,462,817	7,647,338
当期変動額								
剰余金の配当						36,000	36,000	36,000
別途積立金の積立					500,000	500,000	-	-
当期純利益						509,704	509,704	509,704
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	500,000	26,295	473,704	473,704
当期末残高	180,000	4,520	4,520	45,000	6,915,000	976,522	7,936,522	8,121,043

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	55,034	55,034	7,592,303
当期変動額			
剰余金の配当			36,000
別途積立金の積立			-
当期純利益			509,704
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	30,390	30,390	30,390
当期変動額合計	30,390	30,390	504,095
当期末残高	24,644	24,644	8,096,399

当事業年度（自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	180,000	4,520	4,520	45,000	6,915,000	976,522	7,936,522	8,121,043
会計方針の変更による累積的影響額						8,319	8,319	8,319
会計方針の変更を反映した当期首残高	180,000	4,520	4,520	45,000	6,915,000	984,842	7,944,842	8,129,363
当期変動額								
剰余金の配当						36,000	36,000	36,000
別途積立金の積立					500,000	500,000	-	-
当期純利益						614,377	614,377	614,377
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計					500,000	78,377	578,377	578,377
当期末残高	180,000	4,520	4,520	45,000	7,415,000	1,063,219	8,523,219	8,707,740

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	24,644	24,644	8,096,399
会計方針の変更による累積的影響額			8,319
会計方針の変更を反映した当期首残高	24,644	24,644	8,104,718
当期変動額			
剰余金の配当			36,000
別途積立金の積立			-
当期純利益			614,377
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27,041	27,041	27,041
当期変動額合計	27,041	27,041	551,336
当期末残高	51,685	51,685	8,656,055

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、匿名組合への出資持分については、組合契約に規定される決算報告日における最近の決算書を基礎とし、匿名組合損益のうち当社に帰属する持分相当損益を「営業外損益」の匿名組合投資利益・損失に計上するとともに「長期未払金」に計上しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

製品、原料、貯蔵品

移動平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

製造設備の内機械装置 10~20年

供給設備の内導管 13~22年

業務設備の内建物 10~50年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なおソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) 投資その他の資産(リース資産を除く)

長期前払費用

10年の期間で均等償却しております。

(4) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) ガスホルダー修繕引当金

球形ガスホルダーの周期的な修繕に要する費用の支出に備えるため、次回修繕見込額を次回修繕までの期間に配分して計上しております。

(5) 賞与引当金

従業員の賞与金の支出に備えて、将来の賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

都市ガス

売上高に含まれる都市ガスの売上は、定例的に実施する計量器の検針により測定した需要家のガス使用量に基づいて認識しております。

L N G

売上高に含まれるL N Gの売上は、顧客に引き渡した時点で収益を認識しております。

L P G

売上高に含まれるL P Gの売上は、定例的に実施する計量器の検針により測定した需要家のガス使用量、及び、決算月の検針日から期末日までに生じた収益を見積もって認識しております。

受注工事売上

売上高に含まれる受注工事売上は、工事完成基準に基づいて認識しております。

器具売上

売上高に含まれる器具売上は、顧客による器具の検収に基づいて認識しております。

6. ヘッジ会計の方法

該当事項はありません。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性について

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した額

(単位：千円)

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産	262,595	272,268

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報」に記載した内容と同一であります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 令和2年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、ガス小売事業者におけるガス売上及びLPG売上に関して、従来は毎月の検針による使用量の計量に基づき収益を認識しておりましたが、決算月の検針日から決算日までに生じた収益を見積って認識する方法に変更しております。ただし、「ガス事業会計規則」が適用されるガス売上は、毎月の検針による使用量の計量に基づき収益を認識しており、従来から変更はありません。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の繰越利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当事業年度の売上高、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ2,804千円増加しております。また、繰越利益剰余金の当期首残高は8,319千円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形」及び「売掛金」は、当事業年度より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示しております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 令和元年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することいたしました。なお、財務諸表に与える影響はありません。

## (貸借対照表関係)

## 1 担保資産及び担保債務

## 担保に供している資産

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
供給設備	159,457千円	146,070千円
業務設備	571,109	571,074
計	730,567	717,145

## 上記に対応する債務

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
長期借入金	138,500千円	84,500千円
未払高度化資金	187,745	170,479
1年以内に期限到来の固定負債	80,679	81,315
計	406,924	336,294

## 2 有形固定資産の取得価額から控除されている圧縮記帳累計額

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
製造設備	1,320,015千円	1,320,015千円
供給設備	3,046,177	3,049,801
業務設備	41,002	41,002
附帯事業設備	196,873	196,873
計	4,604,069	4,607,693

## 3 関係会社に係る注記

各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
売掛金	225,530千円	104,233千円
未収入金	5,375	3,462
その他流動資産	5,476	4,229
買掛金	21,690	28,378
未払費用	61,963	141,525

## 4 未払高度化資金

九州ガス事業協同組合から借り入れた高度化事業用の資金であります。

5 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
当座貸越極度額	2,300,000千円	2,300,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	2,300,000	2,300,000

6 保証債務

他の会社の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っております。

(1) 債務保証

	前事業年度 (令和3年3月31日)		当事業年度 (令和4年3月31日)
(株)宮崎ガスリビング(借入債務)	199,600千円	(株)宮崎ガスリビング(借入債務)	461,200千円
計	199,600	計	461,200

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)		当事業年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
営業取引による取引高		営業取引による取引高	
売上高	616,503千円	売上高	476,795千円
仕入高	318,917	仕入高	467,905
営業取引以外の取引による取引高	83,350	営業取引以外の取引による取引高	97,353

2 法人税等には住民税が含まれております。

(有価証券関係)

子会社株式

前事業年度(令和3年3月31日)

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び出資金の貸借対照表計上額

区分	前事業年度 (千円)
子会社株式	152,200
出資金	502,075

当事業年度(令和4年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (千円)
子会社株式	152,200
出資金	502,075

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	33,142千円	32,807千円
退職給付引当金	78,530	78,958
役員退職慰労引当金	22,192	20,809
未払事業税	11,187	10,143
その他有価証券評価差額金	10,789	22,628
匿名組合損失	68,476	67,805
その他	75,907	95,135
繰延税金資産小計	300,226	328,288
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	-	-
将来減算一時差異の合計に係る評価性引当額	4,276	21,008
評価性引当額小計	4,276	21,008
繰延税金資産合計	295,949	307,280
繰延税金負債		
有価証券評価差額金	-	-
前払年金費用	26,693	29,014
その他	6,660	5,996
繰延税金負債合計	33,354	35,011
繰延税金資産の純額	262,595	272,268

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (令和3年3月31日)	当事業年度 (令和4年3月31日)
法定実効税率 (調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		
住民税均等割		
その他		
税効果会計適用後の法人税等の負担率		

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	株式会社宮崎銀行	34,416	71,001
		日本郵政株式会社	40,000	35,936
		株式会社かんぼ生命保険	20,000	42,720
		九州旅客鉄道株式会社	14,000	35,098
		株式会社宮崎太陽銀行	7,915	7,455
		株式会社宮崎太陽銀行(優先株)	30,000	300,000
		A N Aホールディングス株式会社	2,706	6,943
		株式会社石井鐵工所	100	294
		宮交ホールディングス株式会社	802,390	200,000
		株式会社センター・シティ	20	20,000
		株式会社エフエム宮崎	150	7,500
		日本瓦斯株式会社	12,000	5,800
		株式会社ソラシドエア	532	4,992
		株式会社宮崎県ソフトウェアセンター	100	2,393
		株式会社宮崎ガス総合サービスセンター	3,000	1,500
		宮崎ケーブルテレビ株式会社	200	1,180
		株式会社まちづくり延岡	50	1,000
		宮崎空港ビル株式会社	60	600
		宮崎ゴルフ株式会社	50	500
		株式会社宮崎山形屋	900	450
株式会社宮崎放送	900	450		
株式会社宮崎日日新聞社	8,000	400		
美々津観光開発株式会社	5	250		
株式会社ヘルストピア延岡	5	187		
		合計	977,499	746,649

【債券】

		銘柄	券面総額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	九州電力社債	100,000	101,810
		日本生命無担保社債	100,000	100,800
		J-C r e s s リンク債	100,000	94,260
		計	300,000	296,870

【その他】

		銘柄	投資口数等	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	投資のソムリエ	121,609,941	139,596
		ダブルブレイン	106,883,754	142,155
		n e t W I N G Sテクノロジー	19,430,695	48,195
		あおぞら新グローバル	97,847,359	95,577
		計		425,524

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
製造設備 (内土地)	4,746,571 (500,540)	15,977 ( - )	8,410 ( - )	4,754,137 (500,540)	3,980,695	51,043	773,442
供給設備 (内土地)	24,450,766 (70,390)	541,877 (2,063)	143,202 ( - )	24,849,442 (72,454)	20,980,977	699,912	3,868,464
業務設備 (内土地)	2,122,050 (676,154)	102,978 (518)	5,575 ( - )	2,219,453 (676,672)	989,737	80,962	1,229,716
附帯事業設備 (内土地)	2,104,027 (134,023)	1,760 ( - )	540 ( - )	2,105,247 (134,023)	1,753,666	33,544	351,581
建設仮勘定 (内土地)	33,613 ( - )	1,061,373 ( - )	780,607 ( - )	314,379 ( - )	-	-	314,379
有形固定資産計 (内土地)	33,457,029 (1,381,109)	1,723,967 (2,581)	938,336 ( - )	34,224,660 (1,383,691)	27,705,075	865,463	6,537,584
無形固定資産							
その他無形固定資産	128,880	-	-	128,880	65,032	15,466	63,848
無形固定資産計	128,880	-	-	128,880	65,032	15,466	63,848
長期前払費用	1,360,682	150,077	-	1,510,759	718,801	141,363	791,958

(注) 1. 当期増加額および当期減少額の主なものは次のとおりであります。

資産の種類	当期増加額		当期減少額	
	摘要	金額(千円)	摘要	金額(千円)
供給設備	導管工事	487,567	導管工事	116,603

2. 無形固定資産のその他固定資産の当期期首残高については、前期末迄償却済の残高を除いております。

3. 長期前払費用の当期首残高については、前期末迄償却済の残高を除いております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金					
投資その他の資産	6,300	-	-	-	6,300
流動資産	4,042	2,122	-	4,042	2,122
計	10,342	2,122	-	4,042	8,422
役員退職慰労引当金	257,901	24,219	22,815		259,305
ガスホルダー修繕引当金	37,963	9,658	-	-	47,622
賞与引当金	72,880	68,341	72,880	-	68,341

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	10,000株券 5,000株券 1,000株券 500株券 100株券 50株券 10株券 5株券 1株券
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	-
株式の名義書換え	
取扱場所	本社総務部総務課 宮崎市阿波岐原町野間311番地1
株主名簿管理人	特定者なし
取次所	延岡支店 延岡市昭和町1丁目7番地4 都城支店 都城市吉尾町2145番地1
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	1枚につき 50円
单元未満株式の買取り	
取扱場所	-
株主名簿管理人	-
取次所	-
買取手数料	-
公告掲載方法	宮崎日日新聞
株主に対する特典	なし

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

該当事項はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度(第129期)(自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日) 令和3年6月29日九州財務局長に提出。

#### (2) 臨時報告書

令和3年7月21日九州財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(監査公認会計士の異動)に基づく臨時報告書であります。

令和4年4月6日九州財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号(代表取締役の異動)に基づく臨時報告書であります。

#### (3) 半期報告書

(第130期中)(自 令和3年4月1日 至 令和3年9月30日) 令和3年12月24日九州財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

令和4年6月29日

宮崎瓦斯株式会社

取締役会 御中

三浦公認会計士事務所

宮崎県宮崎市

公認会計士 三浦 洋司

工藤公認会計士事務所

宮崎県宮崎市

公認会計士 工藤 経芳

### 監査意見

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている宮崎瓦斯株式会社の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

私たちは、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、宮崎瓦斯株式会社及び連結子会社の令和4年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私たちの責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。私たちは、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役への責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

私たちの連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私たちはその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私たちが報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役への責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

令和4年6月29日

宮崎瓦斯株式会社

取締役会 御中

三浦公認会計士事務所

宮崎県宮崎市

公認会計士 三浦 洋司

工藤公認会計士事務所

宮崎県宮崎市

公認会計士 工藤 経芳

### 監査意見

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている宮崎瓦斯株式会社の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの第130期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

私たちは、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、宮崎瓦斯株式会社の令和4年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私たちの責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。私たちは、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私たちは、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

私たちの財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、私たちはその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表の監査における私たちの責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は私たちが監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

私たちは、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、私たちが報告すべき事項はない。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。